（別紙1）

支え合いを育む人づくり支援事業　教育・研究活動事業実績報告書

<table>
<tr><td>教育・研究活動名</td><td colspan="5">地域で支え合う尼崎市の子育て支援について学ぶ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">申請大学及び
高校等名等</td><td>大学及び
高校等名</td><td colspan="4">園田学園女子大学</td></tr>
<tr><td>活動
グループ名</td><td colspan="2">黒木ゼミ（3 年生）</td><td>参加学生
等人数</td><td>6　人</td></tr>
<tr><td rowspan="3">指導責任者名
及び連絡先</td><td>学部・学科等
名称</td><td colspan="4">人間教育学部児童教育学科</td></tr>
<tr><td>責任者氏名</td><td>黒木　晶</td><td>連絡先
電話番号</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>E-mail</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">協働する市民活動団
体及び代表者名</td><td>団体名</td><td colspan="4">特定非営利活動法人　やんちゃんこ</td></tr>
<tr><td>代表者氏名</td><td>濱田　英世</td><td>連絡先
電話番号</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>E-mail</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>教育・研究活動
目標</td><td colspan="5">黒木ゼミに所属している学生は、6月に幼稚園教育実習、9 月に保育実習を控えており、これまでの授業での学びを実践の場で深めていく段階にある。子育て支援については座学での学びがメインであり、保護者と直接的に関わる実体験としての学びはほとんど得られていない。また、具体性を含む発達特性の理解や支援についての理解も十分ではない。そこで、本教育・研究活動は、地域で子育てを支えている「やんちゃんこ」で親子とふれ合う経験を通して、子どもをみる目を養いつつ、地域の実態に応じた子育て支援、発達特性に関する理解を深め、子育て支援の役割ついて学ぶことを目的とする。</td></tr>
<tr><td>活動内容及び
実績、評価</td><td colspan="5">添付資料　参照</td></tr>
</table>

※　報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします。

2022 年度 尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業

地域で支え合う子育て支援―NPO 法人やんちゃんことの連携を通して―

黒木　晶（児童教育学科）

はじめに

2020 年度より、特定非営利活動法人「やんちゃんこ」と連携し、活動している。

黒木ゼミには、大学卒業後、主に保育職や教職に就くことを目指す学生が所属している。学生は保育実習や幼稚園教育実習等を経験しており、これまでの授業での学びを実践の場で深めていく段階にある。子育て支援については座学での学びが主で、保護者と直接的に関わる実体験としての学びはほとんど得られていない。そこで、地域で子育てを支えているやんちゃんこに協力いただき、学生が地域の実態に応じた子育て支援について学ぶことを目的として活動を行った。

活動内容及び実績

〈協働市民活動団体〉

特定非営利活動法人　やんちゃんこ

〈活動時期〉

2022 年 7 月～12 月

〈場所・内容〉

・わいわいステーション 見学・参加、実践
・こども通所サービスにじいろプラス見学
・やんちゃんこ夏休み特別企画 見学・参加

<u>わいわいステーションについて</u>

わいわいステーションは、平成 18 年にスタートした「つどいの広場」であり、気軽に子育てについての話をし、自由に遊ぶことができるところである。専門職によるサポートも行われている。

今回の活動として、わいわいステーションの見学や、利用されている親子と触れあうことから始めた。その後、学生が自分達にできることを考え、再度参加し、実践を行った。

7 月の見学・参加時には、濱田先生に指導いただきながら活動の振り返りを行った。地域に寄り添う子育て支援の場を実際にみて関わったことと、濱田先生のお話を結びつけながら、学生自身自分にできることを考える機会となった。

〈学生主体で行ったわいわいステーションでの活動〉

日時：2022 年 12 月 13 日(火)
10:30～12:00/13:00~14：30

内容：

① 身近なものを活用した親子で楽しめる製作活動をする。
② 子どもの発達を考慮した手作りおもちゃを検討し、製作する。

参加人数：午前、午後各 5 組
（コロナ対策として、学生は午前午後と 3 名ずつに分かれて実施した。）

製作活動前には、どのような内容が良いか検討し、利用されている方の動きを想定した自分達の動きと、必要な準備について何度も話し合いをし、準備、リハーサルを行った。手作りおもちゃについては、月齢や個人差を考え、長い期間使えるものの案を出

し合い、素材などにもこだわって作った。

親子での製作活動について

製作物：ポンポンボール

準備物：

・ポリ袋　一人１枚

・輪ゴム　一人２本

・おはながみ　一人３枚

（赤・青・黄・緑・紫・桃色・水色の中から、好きな色を選び取れるようにする。）

（製作手順）

① おはながみを手で握り、丸める。
（ふわふわと丸めても固く丸めてもよい）
② ポリ袋の中に、丸めたおはながみを３つすべて入れる。
③ ポリ袋の口を持ち、空気を入れ、膨らませる。
④ ポリ袋の口をねじって結ぶ。
⑤ 結び目に輪ゴムをかけ、結ぶ。
⑥ 結び目に結んだ輪ゴムに、もう一つの輪ゴムをつなぐ。

完成イメージ図

（製作を体験してもらった保護者の感想）

・簡単で家でもできると思った。
・ハサミなどを使わないので怪我の心配が無いのが良かった。
・他に手作りおもちゃを作るなら、お友達と協力して何か遊べるものがあれば作ってみたい。
・ペットボトルにビーズを入れてマラカスを作ってみたい。

保護者アンケートより、身近な素材で簡単に作ることができるおもちゃや、友達と一緒に楽しめるものへの興味があることがうかがえた。

手作りおもちゃについて

〈ポットン落とし〉

遊び方：ペットボトルキャップを穴あき容器に落とす、つなげる、振る、並べる、食べ物に見立てる等

ポイント：

・入れ物に入れるため指先を使う練習になる

・入れたり出したりを繰り返し行い、物の性質を知る

・つなげることの楽しさを感じる

・マジックテープを付ける練習になる
　→遊びを通して生活面で必要な力を育む

・音の違いを楽しむ

〈マグネットボード〉

遊び方：同じ形を見つけて並べる、好きな色や形を選びボードに貼る、形を組み合わせる等

ポイント：

・好きな形や色を組み合わせて、
　自分で考える力を育てる
・丸や四角、三角などの形の違いを知る
・指先を使い、貼ってはがす練習になる
・色彩感覚を養う

〈活動の反省点〉

・活動当日は月齢の低い子ども（4ヶ月の子ども）が多くて、子どもが製作に参加することが難しかったため、もう少し製作するおもちゃの内容を工夫した方が良かった。
・マグネットおもちゃの角が尖っているものもあったため、丸みを帯びさせる等、年齢に合わせた安全面の対応が必要だった。
・ポットン落としのペットボトルキャップには、マジックテープだけでなく、スナップボタンもつけるように計画し作っていた。しかし、完成品を確かめるためにスナップボタンのつけ外しを数回行った際、フェルトがちぎれそうになってしまった。そこで、急遽マジックテープのみに変更した。フェルトとペットボトルのふたをボンドで接着する作業やスナップボタンの種類の検討が必要だった。

学生は、予測しながら計画を立てることの難しさや、試作を繰り返し、実際に遊びながら改良していく大切さを感じていた。

まとめ

活動する中で、学生が学んだことについて以下に記す。

活動全体を通しての感想、学び

・子ども一人ひとりに合わせた関わりが大切だと改めて感じることができた。
・保育とつなげて考えると、子どもだけではなく、保護者との関わりも重要であり、地域と連携をして継続的に子育て支援を行うことの大切さを実感した。
・定期的に安全面に配慮したおもちゃの検討をしていきたい。
・子育て支援の場に参加し、地域子育て支援に関する理解を深めていきたい。

活動を通して、継続した支援の大切さや難しさについて学生自身が感じていた。学生だからこそできることについて、さらに検討が必要だろう。

※コロナ禍のため、発表は学内のラーニングコモンズ（まちの相談室）に、学生がまとめた活動報告を掲示する形をとった。

謝辞

特定非営利活動法人やんちゃんこ代表理事の濱田英世先生には、実践の場を提供いただき、学生にご指導いただきました。心より御礼申し上げます。

また、やんちゃんこの職員のみなさま、参加されたみなさまに心より感謝申し上げます。

最後に、「尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業」に携わるみなさまに厚く御礼申し上げます。